

開催日：令和6年9月3日（火）
場 所：三重県立美術館 美術体験室

令和6年度第1回三重県立美術館協議会 開催結果

議案2(1)令和5年度事業報告について

- ・収蔵については、収蔵スペースが少ないので収蔵活動をやめるのではなく、厳選して行っています。収集したもののうち絵画1点は購入で、収集は基本的には寄贈に頼っています。
- ・この美術館の収蔵作品の保存状態はとてもいいとお聞きしますので、新しい収蔵作品を期待しますが、保存の方もがんばっていただきたいと思います。
- ・美術館では鑑賞教材「アートカードみえ」が作成され貸し出されており、それを使って毎年授業をしています。そのカードはとても先駆的で20年以上の実績がありますが、使いきれていないとか、いいことは分かるが使い方がよく分からないという教育現場の声もあります。美術館ではいろんな方々が関わっておりその繋がりから、ノウハウも含めて広げていっていただくと教育普及のノウハウが蓄積され伝えられていくと思います。
- ・各学芸員の研究課題等で資料に公開されている以外の個人研究、個人の研究テーマや成果については、年報をウェブサイトで毎年公開しています。

議案2(2)令和6年度事業進捗状況について

- ・令和6年12月から3月末まで4ヶ月間、工事休館の予定とのことだが、SNS等で、今こういう工事をやっています、という進捗状況を発信してはどうか。
- ・南海トラフ地震臨時情報への対応については、対策マニュアルを過去に作成しており、それに沿っての行動となりましたが、今回の臨時情報を受け、今後、見直し、修正更新が必要ではないかという認識です。
展示では、学芸員総出で夕方、養生をして、朝、開館前に元に戻すということをしました。
それとは別に、収蔵庫等で危ないところはないか、という点検をしました。
- ・展示の件で、去年は絵本展があり子どもたちが利用する機会があったのですが、三重県の子どもたち、小さな子どもたちが、美術館を常に利用できるような環境があるといいなと思っています。

・小さいころから子どもを美術館につれてきてましたが、普段の展示は子どもには難しいところもありますが、去年の絵本展のときはすごく見入ってました。

また、いわさきちひろ展の時もインタラクティブアートが楽しかったようですので、小さい子どもも楽しめるものがあると、美術館に来やすいと思いますので、これからもそういうものを期待しております。

・特集展示をもう少しPRをしていただくと、県立美術館は江戸時代や明治だけでなく、洋画だけではなく、今現在のアート作品も展示してるよ、ということが伝わるのではないかと感じました。

・今の時期どこの学校も夏休み自由研究の提出作業に追われてますが、県外の美術館の作品展に出す子どもたちが多いんです。

その理由は、その募集テーマが自由というか、緩やかなところがありまして、動物愛護等テーマに縛られているものよりも、子どもが好きに自由に書いたもの出すケースが多く、三重県に住む子どもたちが、自由に描いた絵が、三重県以外のところに出てしまうという事を残念に思ってます。

・今、美術館、博物館の役割、社会的な役割が重要になったと思います。

子どもに向けて、アクセシビリティの観点から認知症の方とかそういった大人の方に向けても、非常に美術は大事だと思います。

赤ちゃんも美術館に行ったという記憶は残っていて、理解はできなくても、小さい頃からできるだけ続けて行ったことは、役に立つことを医学的にも証明されています。

例えば外国の例ですけども、医師が処方箋で美術館の招待券を出すというところもあるくらいですので、美術館や博物館の役割は非常に重要です。

それだけ美術館は多くの要望が寄せられてますし、特にアクセシビリティは他に先駆けて取組んでみえるので、美術館に頑張っていただきたいと思います。

・レストランの再開については、令和7年4月1日から開業できるよう公募しております。